

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年9月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1592500043		
法人名	医療法人 愛広会		
事業所名	グループホームどっこんの家		
所在地	新潟県胎内市十二天91番地1 (電話) 0254 46 5618		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	5月28日

【情報提供票より】( 20 年 4 月 28 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人、非常勤 0人、常勤換算 8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 2階 建ての 2 階 部分 造り		
------	---------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		800 円	

### (4) 利用者の概要 ( 20 年 4 月現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 85.75 歳	最低 70 歳		最高 98 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中条中央病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年6月に開設した事業所である。建物の1階部分には小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、2階がグループホームとなっている。  
ホームの名前の由来になっている「どっこん水」は、古くから地域に湧き出る名水であり、地域住民の生活になくはならないものである。ホームでも日常的に利用者と一緒に汲みに出かけ、お茶を淹れたり調理に使用する等している。  
運営法人は介護老人保健施設の他に地域包括支援センター、訪問介護サービス等も運営しておりホームとも連携し運営されている。加えて、地域住民からも相互理解されており法人運営者を中心にホーム管理者と共に一層地域へ協力を呼びかけホームの圏域学校区の利用希望者を中心に選定にあたった。  
ホームでは、利用者を住み慣れた地域で支え続けることに重きを置き、ホームに入居されたとしても利用者と地域との交流を積極的に行うなど、地域との一層の連携に努めている。また、運営理念として「利用者と共に過ごす」ことを掲げ、管理者をはじめ職員が一丸となって、利用者の目線に立った支援を目指し日々努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価を行い、管理者・計画作成担当者がまとめ上げて作成した。初めてのサービス評価であり、日々の業務を見直しする機会と捉えて自己評価を実施した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、家族代表、地域包括支援センター職員、地域の代表等が出席して活発な意見交換を行なっている。しかし、ホームの利用者自身は参加していない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの意見、苦情についてはホーム内で出た場合の連絡経路は確立されているが、実際にはなかなか拳がってこない。面会時などに、家族とのコミュニケーションをとるよう努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の福祉祭りや保育園の行事、集落の祭りなど積極的に地域の行事に参加して交流を深めている。これによりホームの存在が地域に周知され、地域の社会資源として受け入れられている。</p>

## 2. 評価報告書

(          部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員と話し合い、地域との関わりを大切にしたいホーム独自の理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議などで職員全員に徹底している。食堂、ホールにも理念を掲示し、常に意識できるようにしている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	広報誌で近隣の週報や自治会などに理念を啓発するよう努めている。家族へも広報誌を郵送している。		
2. 地域との支えあい					
	3	5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉祭や保育園の行事、集落の祭りなど積極的に地域の行事に参加して交流を深めている。これによりホームの存在が地域に周知され、地域の社会資源として受け入れられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を各職員へ配布して、計画作成担当者を中心に自己評価をまとめた。日常の業務を振り返る機会となり、職員はサービス評価を前向きに捉えている。		
	5	8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、家族代表、地域包括支援センター職員、地域の代表等が出席して活発な意見交換を行っている。しかし、ホームの利用者自身は参加していない。		利用者の出席に関してはホーム側も前向きに検討しているので、今後に期待したい。また、運営推進会議で外部評価結果についても報告し、さらなるサービスの向上を図りたいという意向であるので、期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、ホームでの看取りなど具体的なサービスについて相談を重ねている。市の介護相談員を月1回受け入れており、ホームの課題を指摘してもらいサービスの向上に活かしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、カンファレンスで虐待に関する勉強会の準備を進めているが、実現には至っていない。		身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待や言葉によるものなど、虐待についてさらに理解を深めるよう勉強会の実施を期待したい。勉強会には地域包括支援センターの協力も得てはどうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とは主に面会時に、管理者や主任職員から日常の様子を伝えている。面会が難しい家族へは、本人様子を手紙等で伝えている。利用者の金銭は併設施設である介護老人保健施設の事務所で管理されており、限度額を決めて使用している。1ヶ月毎に領収書、残金を家族へ報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が挙がってきた際に管理者、法人事務長までの報告体制は確立されている。現状では、意見や苦情はなかなか挙がってきていない。		家族からの率直な意見はホームにとって大切なことなので、意見箱の設置など様々な手段や方法を設け、よりいっそう家族の意見を引き出す取り組みを期待したい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体の運営については「全体会議」、利用者の支援に関するものは「カンファレンス」で話し合い、職員の意見を聞いている。会議が職員の負担にならないように、時間を決めて効率的に行なうよう工夫している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮して職員の異動はこれまで行っていない。なじみの関係を維持できるよう極力抑えることとしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルは整備されているものの、職員への周知が図りきれていない。見直しについても定期的には行われていない。		各種マニュアルを職員へ配布する、全体会議等で確認しあうなど、周知・活用するためのさらなる工夫を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、市内で行われているものを中心に職員が順番に積極的に参加している。また、研修案内を各職員に周知し、希望に応じて可能な限り参加できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内でのグループホーム事業所との交流機会を設けている。また、市内の他グループホーム職員との交流機会も設け、ネットワークづくりに努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員のストレスに気を配り、職員へ声をかけて話を聞くように意識している。		職員が、休憩時間にゆっくりと十分に休めるような環境整備にさらに期待したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用できるよう、入居前に何度か見学に来てもらい、その上で利用するかどうかの判断をしてもらっている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、介護される一方にならないように、本人の能力を活かしてできることは行なってもらうよう支援している。また、出来る限り利用者と共に過ごす時間を多く持ち、互いに支えあう関係づくりに努めている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員も利用者と同じ目線にたち、日常生活上において利用者ひとりひとりの立場にたって支援を行いつつ、より客観的な視点も忘れないよう、家族とも連携をとりながら情報収集、意向確認をし、支援を行っている。「実家に帰りたい」と訴える利用者に対しては一緒に出かけるなど、出来る限り本人の希望に添えるような支援方法を、家族の協力を得ながら模索している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には、利用者・家族との面談等で本人の生活歴、意向を中心に聞き取りを行い、また、日々本人・家族と関わる中から意向を聞き取れるよう努め、具体的な支援方法に反映するようにしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、管理者・計画作成担当者が中心となり、本人・家族から情報収集をしている。利用者の生活歴を踏まえて出来るところは最大限活用してもらうことができる支援方法を模索している。介護計画作成時、見直し時には、担当職員が家族から聞き取り等を行い、更なる情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心に本人の意向確認、課題分析等を行い、計画作成担当者・他の職員との話し合い、情報交換をして介護計画を作成している。家族へは、担当職員を中心に意向の聞き取りを行なっている。		本人、家族の意向をより一層反映出来るよう、本人・家族のカンファレンスの出席など、今後さらなる工夫を期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、概ね3ヶ月から6ヶ月毎にモニタリングし、見直しを行なっている。また、状態変化等に応じても随時見直ししている。介護計画は、計画作成担当者が担当職員を中心に職員全員、利用者本人、家族から聞き取った意向や情報をもとに見直しをしている。見直した計画は、面会時等に家族に確認してもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望・要望に応じて近隣への買い物や急な外出、隣接する介護老人保健施設での行事への参加など、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には利用者のかかりつけ医への受診をし、継続して医療を受けられるようにしている。受診の付き添いは家族に依頼しているが、緊急時もしくは状態変化等の場合はホーム職員が付き添うこともある。状態変化時等は特にかかりつけ医、ホーム、家族との連携を密にとり、支援方法をともに検討している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望があれば、ホームでの看取りも支援していく意向である。協力病院との連携のほか、往診医の確保を課題として行政とも相談しながら検討しているところである。ホームとしての支援の意向については会議等で職員へ周知し、意思統一を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導や食事の際の声かけは丁寧であり、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮して行なわれている。記録等個人情報についても、所定の場所できちんと保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コックの経験のある利用者に食事づくりを任せるなど、利用者の生活歴や希望の暮らし方を踏まえて、日常生活の中で役割を發揮しながら過ごしてもらえるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の役割分担を一部行なったが、基本的には利用者自身によりそれぞれ役割分担がされ、食事の準備や片付けが行われている。食事は、職員から積極的に利用者へ話しかけ、楽しい雰囲気作りがなされている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方には、定期的な排泄誘導・声かけを実施し、その中での排泄状況は確認しているが、個々の利用者の排泄パターンに応じた支援までには至っていない。利用者の希望に応じて自宅で使用していたポータブルトイレを居室に持ち込んでもらい、夜間のみ使用している方もいる。		できるだけ失敗せずに気持ちよく自立した排泄ができるよう、個々の利用者の排泄パターンやリズムを把握し、それを活かして一人ひとりに応じた支援につながることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階の小規模多機能型居宅介護事業所に身体機能が低下した方も入浴できる特別浴槽、2階のグループホームに一般の家庭浴槽があるので、小規模多機能の利用者と時間調整を行い、その中で利用者の希望に応じてゆったり入浴できるよう支援している。特に、男性利用者が一番風呂を希望することが多いので、希望に添えるよう配慮している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握した上で、一人ひとりの能力を最大限活かせる役割や楽しみごとを支援している。ゴミ捨ても利用者同士で役割分担をしている。また、ドライブや買い物などの外出を日常的に行い気分転換を図っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに名水「どっこん水」が湧いており、日常的にそれを汲みに出かけている。ドライブや買い物も積極的に行ない、利用者職員1対1での個別の外出も利用者の希望に合わせて支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する捉え方、考え方は、会議等を通じて職員に理解の浸透を図っている。研修や勉強会の実施はこれからの段階である。		日々のケアを振り返りその向上に活かせるよう、近くにある地域包括支援センターの協力を得るなどして身体拘束や高齢者虐待など利用者の権利擁護について研修する機会を設けることを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2階にあるため階段の扉は鍵がかかっており、家族への状況説明は行われている。ホームとして鍵をかけないケアの必要性は理解しているが、利用者の行動に予測がつかないこともあり、現状では開錠は出来ていない。		日中の時間帯の中において開錠出来る時間を設けるところから始め、徐々に鍵をかけないケアへ移行できるよう工夫・検討を続けてほしい。
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリ・ハットが起きた場合は、その日勤務している職員によりすぐに検討し、対応している。更に2週間後にカンファレンスを行い、対応策についての見直し、評価を行っている。		ヒヤリ・ハット記録については職員間で検討を重ねて記載しやすい書式にしたものの、簡潔しすぎているが故にヒヤリ・ハットの場面が浮かびにくい書式になってしまっている。職員間で状況を把握しやすいよう、書式や記録内容の再検討が望まれる。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	年に2回、夜間想定をした緊急連絡網訓練を行っているものの、応急手当等の訓練は行われていない。		緊急時にすべての職員が応急手当や初期対応を実践できるよう、ホームで利用者が起こりうる事故やケガ、発作等の場面を想定した実践的な訓練を定期的・継続的に実施することを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	消防署の立会いのもと、非常時、災害時を想定とした訓練が行なわれている。緊急時には近隣の職員が駆けつける体制ができており、また、地域からも協力を得られる体制がつけられている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各々の食事量、水分量は適宜把握されている。栄養バランスやカロリーにも配慮し、献立に反映されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの担当職員が高齢者方が利用していることを踏まえて、折り鶴等の装飾等に止め派手になりすぎないよう配慮している。		トイレや居室入口に目印になるようなものがないので、利用者の場所間違いを防止するためにトイレや個人の居室の目印を、利用者の状況に応じて設置することも検討してはどうか。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には思い思いのものを持ち込んでもらうように依頼している。居室にはそれぞれの利用者に馴染みのあるものが置かれ、その人らしい居室づくりがされている。		